

令和4年度SDGsチャレンジサポートプロジェクト

第2学年 県内フィールドワーク

(概要)

第2学年の探究学習委員による県内フィールドワークを実施しました。

希望者による探究学習委員は、1年次における探究活動の経験を基に、グループごとに研究主題をそれぞれ新たに設定し、年度末の探究学習発表会に向けて1年間の調査・研究を行います。フィールドワークを通して新たな発見を期待します。

記

1 目的

- (1)地域振興や観光開発の事例を学ぶことを通して、自らの探究課題を深化・発展させる。
- (2)銀行や市役所など専門家の話を聞いたり、議論することを通して、幅広い視野を身につける。

2 期 日 令和4年6月7日(火)

3 事業所 筑西市役所(観光振興課、人口対策課)

ザヒロサワ・シティ

板谷波山記念館

しもだて美術館

グランテラス筑西

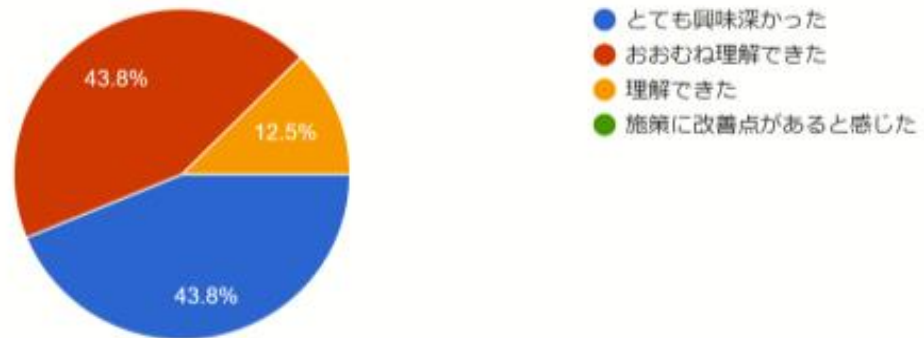
4 対 象 第2学年探究学習委員33名

5 行 程

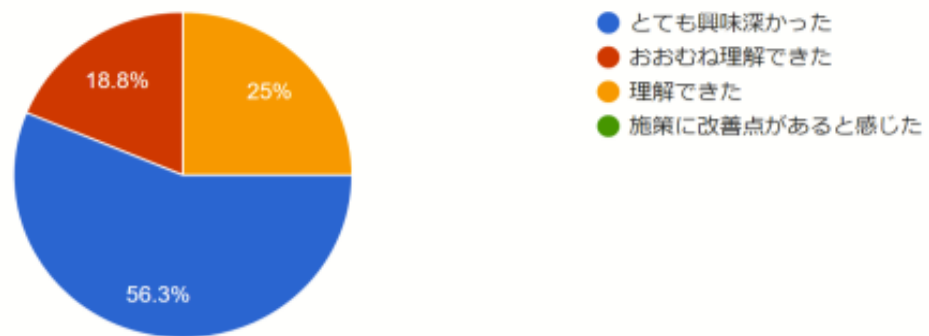
7:30	土浦一高 出発
8:30～9:30	筑西市役所観光振興課、人口対策課(ザ・ヒロサワシティ ミニシアター)
9:30～10:30	科博廣澤航空博物館 見学
10:30～11:30	廣澤美術館 鑑賞
12:00～12:45	(昼食)
13:00～13:15	下館の街並み見学
13:20～14:00	板谷波山記念館 見学
14:00～15:20	しもだて美術館「板谷波山の芸術」鑑賞
15:40～16:30	道の駅グランテラス筑西 見学
17:30	土浦一高 帰着

6 参加した生徒の感想（アンケートより）

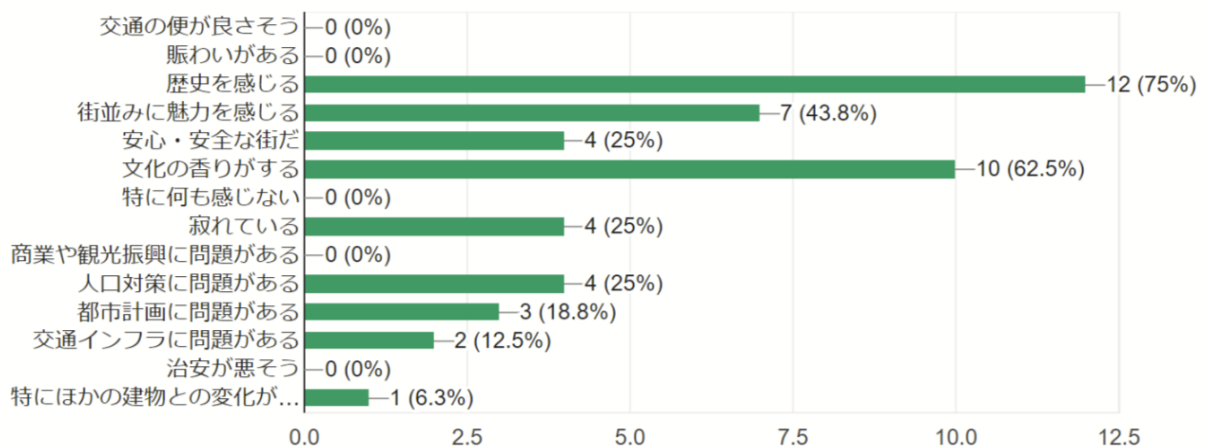
4－1 筑西市の観光対策について、市役所（観光振興課）の方の話を聞いたあなたの感想として最も近い感想を、一つ選んでください。



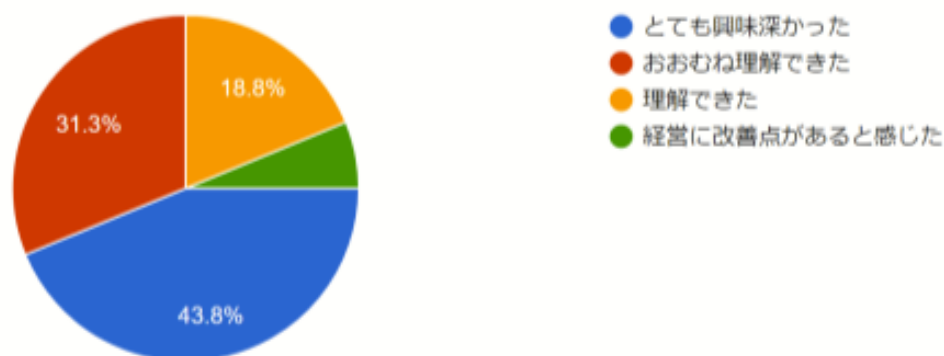
4－2 筑西市の人口対策について、市役所（地方創生課）の方の話を聞いたあなたの感想として最も近い感想を、一つ選んでください。



4－3 地域の文化および観光振興について、筑西観光ボランティアガイドの方と一緒に、旧下館市内や美術館を見学したあなたの感想として、近い感想を選んでください。（複数選択可）



4-4 観光対策について、グランテラス筑西の方の話を聞いたあなたの感想として最も近い感想を、一つ選んでください。



7 参加した生徒の感想（一部抜粋）

○地域内の人々を動かすには、私たちが何か考えて参加していただく以外に、地域の人達自身に考えてもらう事が有力な手段だと気付いた。地域の人々の声をよく聞き、地域の魅力を再発見していただく事が、必要である。今回はどちらかと言うと、観光重視だったが、地域密着型の都市改革を考えている自分たちにとっても、有意義な活動ができた。

○街づくりには、さまざまな要因が絡み合って、一概には解決策が見つからないと分かった。

○インターネットで調べるよりも多くの情報が得られた。対策を考えるときに、容易さや効率、将来を見据えて考えると、どの対策が的確なのかを考えるのは難しそうと感じた。魅力が多いのは分かったが、やはり他の地域との差別化は難しいんじゃないかと思う。若い人を残すには、進学出来る大きな場所が必要不可欠だと考えるが、すぐに出来ることでもない。早期の対策（応急処置的なもの）は思いつかなかった。

○筑西市が市の問題の解決のために大学生の若い発想を活かそうとしていたのはとても興味深かった。私のグループのテーマはスマート農業ということで、地域の活性化に直接は繋がらないかもしれないが、スマート農業が地域の活性化の足がかりになるかもしれないので、今日学んだ地域活性化に向けた取り組みは参考にしたい。

○今回のFWで一番自分の心に刺さった言葉は、最後によぎ先生がおっしゃった、「日本は沈みゆく船だ」という表現だ。確かに今の日本では様々な問題がある。日本人として日本の現状と未来を考えることはすごく大切なのは分かるし、そのような教育が必要だと思った。一方で、日本の問題の前に発展途上国の支援の方に目を向けがちである自分に気づいた。個人的には海外で活動することの方がいつまでも日本にとどまることよりも魅力的だと感じる。FWの内容とは全く外れてしまうが、今の自分がすべきことに沢山疑問が湧いてきてしまい、何をしたら良いのか分からなくなってしまった。

○今回の探究では銀行と町の繋がりも重要だと思った。街を良くするためにはもちろんお金が必要で、良くしていく方法や具体的な方針をお互いが理解した上で実現できることだと思う。

○板谷波山、道の駅、農業、歴史のあるお祭りなど様々なことに力を入れている筑西市の方々の努力が伝わってきた。筑西にはあれもこれもあるといったアピール方法も良いとは思いますが「筑西市といえば○

○」と言えるような一際目立つものがあれば、よりたくさんの人の印象に残りやすくなるかもしれないと感じる。

○第一に、来てくれた人を楽しませる、おもてなしをする、という工夫が、我々を良い気持ちにさせてくれるということが分かった。消費者等の気持ちにまず第一に寄り添い、どこまで譲歩できるのか、どこまで改善できるのかを詰めていくのが大切なんだなと感じた。

8 筑西市への提案

○町おこしとして板谷波山に頼りすぎなイメージがあった。

○高齢者の方への対応が少し気になった。福祉が充実していたり、健康に関して気を使っているのはよく分かったし、大切である事は確かだと思うが、高齢者のコミュニティーにもっと重点を置くべきだと思う。高齢者の方が主体的にお喋りしたり、健康に気を使えるような、高齢者に優しい町づくりを考えるべきだと感じる。少子高齢化は日本全体で進んでいる問題なので、避ける事は難しいからこそ、必要なのでは無いかと感じた。

○若年層への郷土愛を高めるだけでは、実家によく帰ってくるなど副次的な効果はあるが、将来自分が定住したいと考えるまでの動機には至らないと思う。

○街並み自体は綺麗で、田園風景もとても壮観で良い街だと思うが、祭りの宣伝やInstagramを使った広告などの、他の自治体もやっている宣伝方法ではなかなか差別化を図れなく、勿体無いと思う。

○実現可能性を度外視して、ご当地を巡るすごろくゲームである桃太郎電鉄に物件駅を作ってもらうなど、テレビゲーム等と協力して、そのゲーム中での宣伝や、アニメやドラマ、映画などの撮影に筑西市の絶景スポットを貸したり、他の自治体が行わない、または行えない筑西市独自の宣伝方法を行えば、観光客はもちろん、定住者の増加も見込めるのではないかな。

○筑西市は人口減少という問題に対し、若い世代が活躍できる場を設けることで若い世代の流出を防ぎ、問題解決に努めているが、その一環として市議会の他に若者による総会を作り、その総会に一定の権限を持たせることで、もっとダイレクトに若者の力を市の政治に反映でき、その魅力によって市内外の多くの若者が市に関心を持つようになると思う。また、筑西市は高齢者の割合が多いので、高齢者でも楽しく仕事ができる環境を作り、その利益の一部を市の収入とすれば、人口減少による税収の減少という課題にも対策ができると思う。

○人口を増やすためには定住者を増やし、定住者を増やすためにはとりあえず人を呼び込む必要がある。そのために観光者を増やすという取り組みはもちろん大切だと思う。

○筑西市には、魅力的な資源は多く存在すると思うが、強いコンセプトが存在していない。例えば京都や鎌倉といえば、「歴史」、東京といえば「いま」を楽しむことができる。このように「～といえば、筑西市」というものを大々的に知られないと、観光客が増えないと思う。今で言うなら「板谷波山」を推すのが良いのかなと思うが、いかんせん「笠間」と被ってしまう部分がある。しかし、言い換えれば笠間と筑西市は似ている部分が多い。笠間は修学旅行等で人を呼び込むことができていたので、筑西市も笠間市と同じように修学旅行生のような、学生を対象として、「修学旅行」といえば「筑西」という印象を植え付けてみても良いのかなと少し思う。

○「景色が綺麗」というのも、一つのコンセプトとしては面白い。

○住みやすい都市を作るといっても必要になってくると思う。親子が安全に通学できることを重視して住居を選んだと言っていたので、安全に道を歩くことができるということが大切だと思う。

9 県内フィールドワークの様子



筑波銀行の方より



筑西市観光振興課より



筑西市人口対策課より



質問する生徒



科博廣澤航空博物館にて



廣澤美術館にて



地元食材や「モロ」を使った昼食



下館街並み見学(ボランティアと散策)



板谷波山記念館にて



しもだて美術館にて



廣澤美術館庭園にて



道の駅グランテラス筑西にて